



構成の管理

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere

NetApp

December 09, 2025

目次

構成の管理	1
バックアップのタイムゾーンの変更	1
ログオン クレデンシャルの変更	2
vCenterログオン クレデンシャルの変更	3
ネットワーク設定の変更	4
設定のデフォルト値の変更	5
scbr.override構成ファイルの作成	5
上書き可能なプロパティ	5
SnapCenter Plug-in for VMware vSphere用のSSHの有効化	10

構成の管理

バックアップのタイムゾーンの変更

開始する前に

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの管理GUIのIPアドレスとログイン クレデンシャルを確認しておく必要があります。また、メンテナス コンソールから生成されたMFAトークンもメモしておく必要があります。

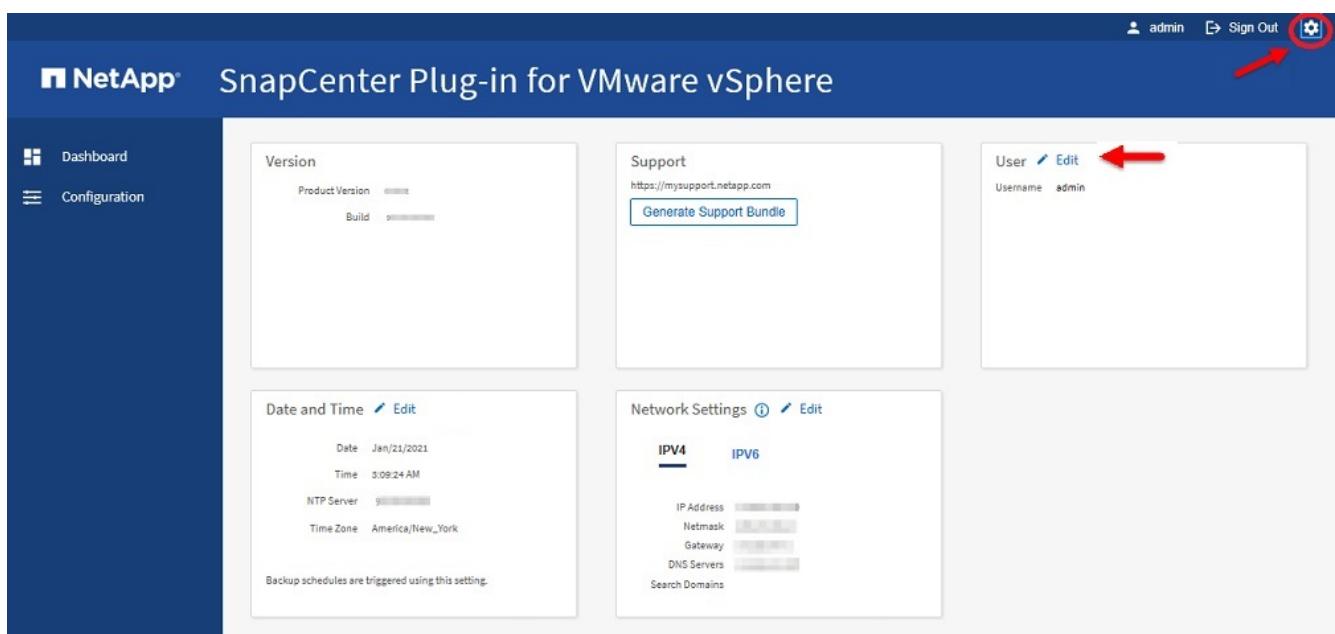
- このIPアドレスは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に表示されたものです。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に指定したログイン クレデンシャル、またはあとで変更したログイン クレデンシャルを使用します。
- メンテナス コンソールのシステム構成オプションを使用して、6桁のMFAトークンを生成します。

手順

1. SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理GUIにログインします。

フォーマットを使用する <https://<appliance-IP-address>:8080>

2. 上部のツールバーにある設定アイコンを選択します。



3. *設定*ページの*日付と時刻*セクションで、*編集*を選択します。
4. 新しいタイムゾーンを選択し、[保存] を選択します。

新しいタイムゾーンは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで実行されるすべてのバックアップに使用されます。

ログオン クレデンシャルの変更

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの管理GUIのログオン クレデンシャルを変更できます。

開始する前に

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの管理GUIのIPアドレスとログオン クレデンシャルを確認しておく必要があります。また、メンテナンス コンソールから生成されたMFAトークンもメモしておく必要があります。

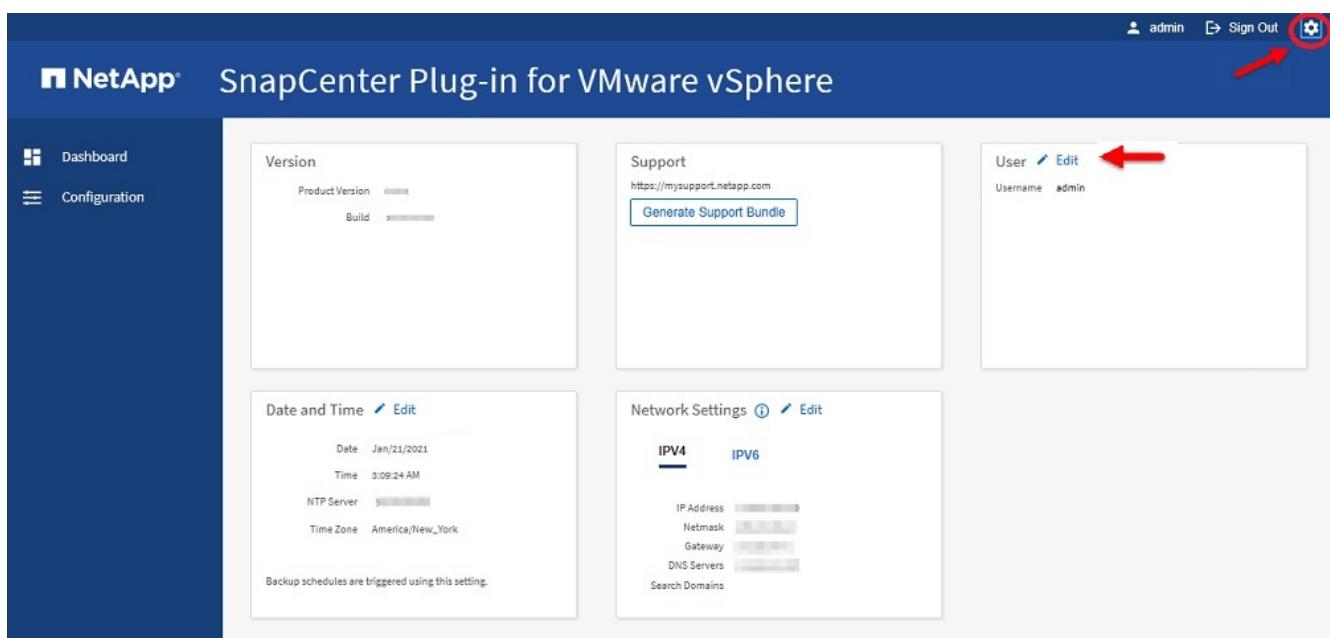
- このIPアドレスは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に表示されたものです。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に指定したログイン クレデンシャル、またはあとで変更したログイン クレデンシャルを使用します。
- メンテナンス コンソールのシステム構成オプションを使用して、6桁のMFAトークンを生成します。

手順

1. SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理GUIにログインします。

フォーマットを使用する <https://<appliance-IP-address>:8080>

2. 上部のツールバーにある設定アイコンを選択します。



3. *設定*ページの*ユーザー*セクションで、*編集*を選択します。
4. 新しいパスワードを入力し、「保存」を選択します。

すべてのサービスが復旧するまでに数分かかることがあります。

vCenterログオン クレデンシャルの変更

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで設定されているvCenterログオン クレデンシャルは変更できます。これらの設定を使用して、プラグインからvCenterにアクセスします。vCenterのパスワードを変更した場合、vVolバックアップがシームレスに機能するためには、ONTAP Tools for VMware vSphereの登録を解除し、新しいパスワードで再登録する必要があります。

開始する前に

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの管理GUIのIPアドレスとログオン クレデンシャルを確認しておく必要があります。また、メンテナンス コンソールから生成されたMFAトークンもメモしておく必要があります。

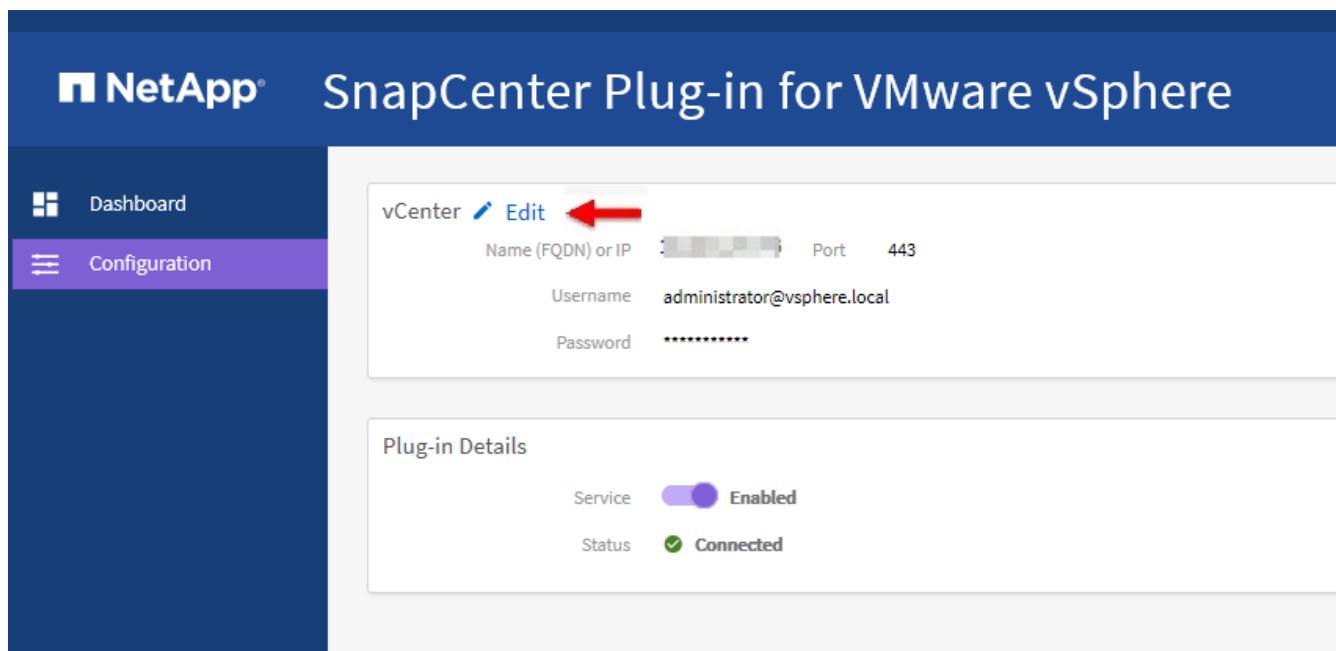
- このIPアドレスは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に表示されたものです。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に指定したログイン クレデンシャル、またはあとで変更したログイン クレデンシャルを使用します。
- メンテナンス コンソールのシステム構成オプションを使用して、6桁のMFAトークンを生成します。

手順

1. SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理GUIにログインします。

フォーマットを使用する `https://<appliance-IP-address>:8080`

2. 左側のナビゲーションペインで、[構成] を選択します。



3. 構成 ページの **vCenter** セクションで、編集 を選択します。
4. 新しいパスワードを入力し、「保存」を選択します。

ポート番号は変更しないでください。

ネットワーク設定の変更

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで設定されているネットワーク設定は変更できます。これらの設定を使用して、プラグインからvCenterにアクセスします。

開始する前に

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの管理GUIのIPアドレスとログオン クレデンシャルを確認しておく必要があります。また、メンテナンス コンソールから生成されたMFAトークンもメモしておく必要があります。

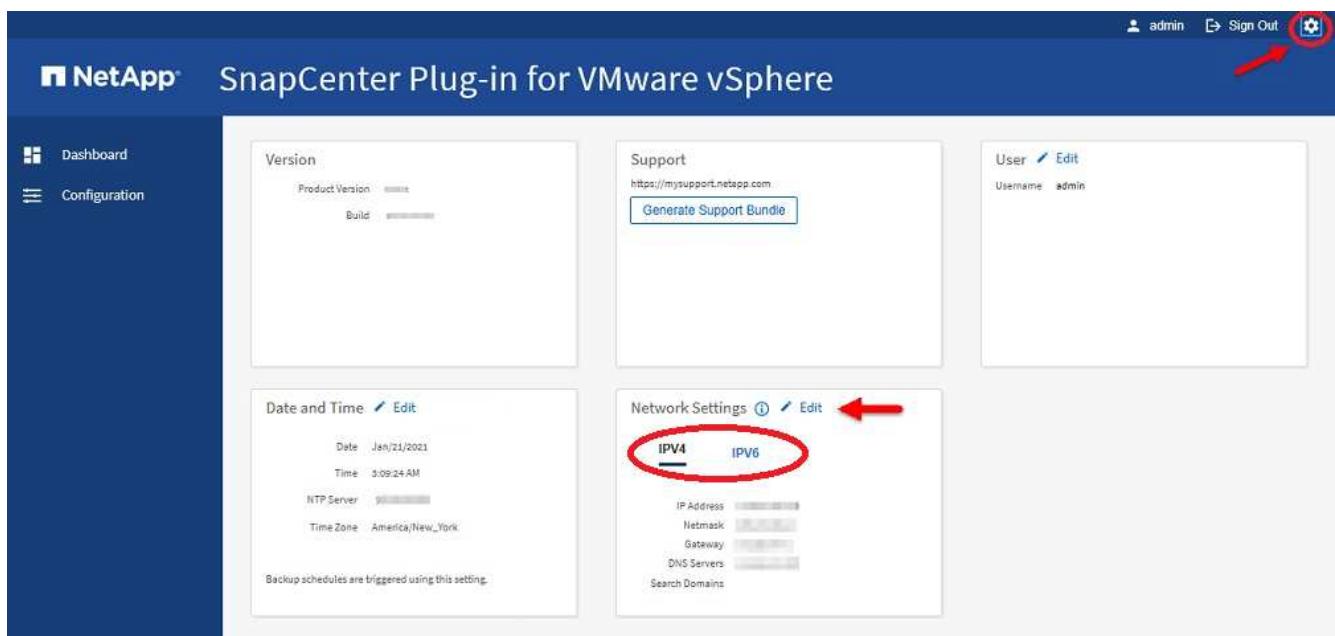
- このIPアドレスは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に表示されたものです。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に指定したログイン クレデンシャル、またはあとで変更したログイン クレデンシャルを使用します。
- メンテナンス コンソールのシステム構成オプションを使用して、6桁のMFAトークンを生成します。

手順

1. SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理GUIにログインします。

フォーマットを使用する <https://<appliance-IP-address>:8080>

2. 上部のツールバーにある設定アイコンを選択します。



3. *設定*ページの*ネットワーク設定*セクションで、*IPv4*または*IPv6*アドレスを選択し、*編集*を選択します。

新しい情報を入力し、「保存」を選択します。

4. ネットワーク設定を削除する場合は、次の手順を実行します。

- ° IPv4: IPアドレス*フィールドに入力します `0.0.0.0` 次に、[*保存]を選択します。
- ° IPv6: IPアドレス*フィールドに入力します `::0` 次に、[*保存]を選択します。



IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を使用している場合は、両方のネットワーク設定を削除することはできません。残っているネットワークでは、[DNS Servers]フィールドと[Search Domains]フィールドを指定する必要があります。

設定のデフォルト値の変更

運用効率を向上させるには、`scbr.override` デフォルト値を変更するには、構成ファイルを使用します。これらの値は、バックアップの実行時に作成または削除する VMware スナップショットの数や、バックアップスクリプトの実行を中止するまでの時間などの設定を制御します。

その `scbr.override` 構成ファイルは、SnapCenter アプリケーションベースのデータ保護操作をサポートする環境で、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere によって使用されます。このファイルが存在しない場合は、テンプレート ファイルから作成する必要があります。

scbr.override構成ファイルの作成

その `scbr.override` 構成ファイルは、SnapCenter アプリケーションベースのデータ保護操作をサポートする環境で、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere によって使用されます。

1. 移動 /opt/netapp/scvservice/standalone_aegis/etc/scbr/scbr.override-template。
2. コピー `scbr.override-template` ファイルを新しいファイルに `scbr.override` の中で `'\opt\netapp\scvservice\standalone_aegis\etc\scbr'` ディレクトリ。

上書き可能なプロパティ

にリストされているプロパティを使用できます `scbr.override` デフォルト値を変更するには、構成ファイルを使用します。

- デフォルトのテンプレートでは、ハッシュ記号により設定プロパティがコメント化されています。プロパティを使用して構成値を変更するには、`#` 文字。
- 変更を有効にするには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere ホスト上のサービスを再起動する必要があります。

以下のプロパティを使用できます。`scbr.override` デフォルト値を変更するには、構成ファイルを使用します。

- **ダッシュボード保護されたVMカウント間隔=7**

ダッシュボードに VM の保護ステータスが表示される日数です。

デフォルト値は「7」です。

- **disable.weakCiphers=true**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere と SnapCenter 間の通信チャネルの次の weakCipher と、以下にリ

ストされている追加の weakCipher を無効にします。 `include.weakCiphers` :
TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256
TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256 TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384 TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256
TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384

- グローバル.ds.除外パターン

バックアップ処理から除外する従来のデータストアまたはvVolデータストアを1つ以上指定します。データストアは、有効なJava正規表現を使用して指定できます。

例1: 式 `global.ds.exclusion.pattern=.*21` 共通のパターンを持つデータストアを除外します。例: `datastore21` そして `dstest21` 除外されます。

例2: 式 `global.ds.exclusion.pattern=ds-.*|^vol123` を含むすべてのデータストアを除外します `ds-` (例えば scvds-test) または vol123。

- guestFileRestore.guest.operation.interval=5**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがゲスト（オンライン ディスクリストアファイル）でのゲスト処理の完了を監視する時間（秒）です。合計待ち時間は、

`guestFileRestore.online.disk.timeout` そして
`guestFileRestore.restore.files.timeout`。

デフォルト値は「5」です。

- ゲストファイルリストア.監視間隔=30**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが期限切れゲストファイルリストアセッションを監視する時間（分）です。設定されたセッション時間を超えて実行されているセッションはすべて切断されます。

デフォルト値は「30」です。

- guestFileRestore.online.disk.timeout=100**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがゲストVMでのオンラインディスク処理が完了するまで待機する時間（秒）です。プラグインがオンラインディスク処理の完了をポーリングするまでに、さらに30秒の待機時間があります。

デフォルト値は「100」です。

- guestFileRestore.restore.files.timeout=3600**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがゲストVMでのファイルのリストア処理が完了するまで待機する時間（秒）です。この時間を超過するとプロセスは終了され、ジョブは失敗としてマークされます。

デフォルト値は「3600」（1時間）です。

- guestFileRestore.roboCopy.directory.flags=/R:0 /W:0 /ZB /CopyAll /EFSRAW /A:-SH /e /NJH /NDL /NP**

ゲストファイルのリストア処理中に、ディレクトリをコピーする際に使用される追加のRobocopyフラグです。

削除しないでください `/NJH` または追加 `/NJS` 復元出力の解析が壊れるからです。

無制限の再試行を許可しない（`/R` フラグ）を使用すると、失敗したコピーの再試行が無限に発生する可能性があります。

デフォルト値は `/R:0 /W:0 /ZB /CopyAll /EFSRAW /A-:SH /e /NJH /NDL /NP`。

- **guestFileRestore.robocopy.file.flags=/R:0 /W:0 /ZB /CopyAll /EFSRAW /A-:SH /NJH /NDL /NP**

ゲスト ファイルのリストア処理中に、個々のファイルをコピーする際に使用される追加のRobocopy フラグです。

削除しないでください `/NJH` または追加 `/NJS` 復元出力の解析が壊れるからです。

無制限の再試行を許可しない（`/R` フラグ）を使用すると、失敗したコピーの再試行が無限に発生する可能性があります。

デフォルト値は `/R:0 /W:0 /ZB /CopyAll /EFSRAW /A-:SH /NJH /NDL /NP`。

- ゲストファイルリストア.セッションタイム=1440

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere がゲスト ファイル リストア セッションをアクティブにしておく時間（分）です。

デフォルト値は「1440」（24時間）です。

- **guestFileRestore.use.custom.online.disk.script=true**

ゲスト ファイル リストア セッションの作成時に、ディスクのオンライン化とドライブ レターの取得のためにカスタム スクリプトを使用するかどうかを指定します。スクリプトは次の場所に置く必要があります [Install Path] ` \etc\guestFileRestore_onlineDisk.ps1`。デフォルトのスクリプトがインストール時に配置されています。価値観 [Disk_Serial_Number]、[Online_Disk_Output]、そして `[Drive_Output]` アタッチプロセス中にスクリプト内で置き換えられます。

デフォルト値は「false」です。

- **include.esx.initiator.id.from.cluster=true**

VMDK ワークフローを介したアプリケーションで、クラスタ内のすべての ESXi ホストの iSCSI イニシエータと FCP イニシエータの ID を SnapCenter Plug-in for VMware vSphere に含めるように指定します。

デフォルト値は「false」です。

- **include.weakCiphers**

いつ `disable.weakCiphers` 設定されている `true` は、無効にする弱い暗号と、`disable.weakCiphers` デフォルトでは無効になっています。

- **最大同時DSストレージクエリ数=15**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere がデータストアのストレージ容量を検出するために SnapCenter Server に対して実行できる同時呼び出しの最大数です。これらの呼び出しは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere の VM ホストで Linux サービスを再起動すると、プラグインによって実行されます。

- **nfs.データストアのマウント再試行回数=3**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがvCenterでボリュームをNFSデータストアとしてマウントする際の最大試行回数です。

デフォルト値は「3」です。

- **nfs.datastore.mount.retry.delay=60000**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがvCenterでボリュームをNFSデータストアとしてマウントする際の試行間隔（ミリ秒）です。

デフォルト値は「60000」（60秒）です。

- **script.virtual.machine.count.variable.name=VIRTUAL_MACHINECOUNT**

仮想マシンの数を含む環境変数の名前です。この変数は、バックアップジョブ時にユーザ定義スクリプトを実行する場合に必ず定義する必要があります。

たとえば、VIRTUAL_MACHINECOUNT=2と指定した場合、2台の仮想マシンがバックアップされます。

- **script.virtual.machine.info.variable.name=VIRTUAL_MACHINE.%s**

バックアップのn台目の仮想マシンに関する情報を含む環境変数の名前です。この変数は、バックアップ時にユーザ定義スクリプトを実行する場合に必ず定義する必要があります。

たとえば、環境変数VIRTUAL_MACHINE.2は、バックアップの2台目の仮想マシンに関する情報を提供します。

- **script.virtual.machine.info.format=%s|%s|%s|%s|%s**

仮想マシンに関する情報を提供します。環境変数で設定されるこの情報の形式は次のとおりです。 VM name|VM UUID| VM power state (on|off)|VM snapshot taken (true|false)|IP address(es)

指定できる情報の例を次に示します。

VIRTUAL_MACHINE.2=VM 1|564d6769-f07d-6e3b-68b1f3c29ba03a9a|POWERED_ON||true|10.0.4.2

- **ストレージ接続タイムアウト=600000**

SnapCenter Serverがストレージシステムからの応答を待つ時間（ミリ秒）です。

デフォルト値は「600000」（10分）です。

- **vmware.esx.ip.kernel.ip.map**

デフォルト値はありません。この値は、ESXiホストのIPアドレスをVMkernel IPアドレスにマップするために使用します。デフォルトでは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereはESXiホストの管理VMkernelアダプタIPアドレスを使用します。SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで別のVMkernelアダプタIPアドレスを使用する場合は、上書きする値を指定する必要があります。

次の例では、管理VMkernelアダプタのIPアドレスは10.225.10.56ですが、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは指定されたアドレス10.225.11.57および10.225.11.58を使用します。管理VMkernelアダプタIPアドレスが10.225.10.60の場合、プラグインではアドレス10.225.11.61が使用されます。

```
vmware.esx.ip.kernel.ip.map=10.225.10.56:10.225.11.57,10.225.11.58;  
10.225.10.60:10.225.11.61
```

- **vmware.max.concurrent.snapshots=30**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがサーバで実行できる同時VMwareスナップショットの最大数です。

この数は、ポリシーで[VM consistent]が選択されている場合にのみ、データストア単位でチェックされます。クラッシュ整合性バックアップを実行する場合、この設定は適用されません。

デフォルト値は「30」です。

- **vmware.max.concurrent.snapshots.delete=30**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがサーバで実行できる同時VMware Snapshot削除処理の、データストアあたりの最大数です。

この数はデータストア単位でチェックされます。

デフォルト値は「30」です。

- **vmware.query.unresolved.retry.count=10**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、「...time limit for holding off I/O...」エラーが原因で未解決のボリュームに関するクエリの送信を再試行する最大回数です。

デフォルト値は「10」です。

- **vmware.quiesce.retry.count=0**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、バックアップ中の「...time limit for holding off I/O...」エラーが原因でVMwareスナップショットに関するクエリの送信を再試行する最大回数です。

デフォルト値は「0」です。

- **vmware.quiesce.retry.interval=5**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、バックアップ中の「...time limit for holding off I/O...」エラーが原因でVMwareスナップショットに関するクエリを送信する間隔（秒）です。

デフォルト値は「5」です。

- **vmware.query.unresolved.retry.delay= 60000**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、「...time limit for holding off I/O...」エラーが原因で未解決のボリュームに関するクエリを送信する間隔（ミリ秒）です。このエラーは、VMFSデータストアのクロールを作成する際に発生します。

デフォルト値は「60000」（60秒）です。

- **vmware.reconfig.vm.再試行回数=10**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、「...time limit for holding off I/O...」エラーが原因でVMの再

設定に関するクエリの送信を再試行する最大回数です。

デフォルト値は「10」です。

- **vmware.reconfig.vm.retry.delay=30000**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、「...time limit for holding off I/O...」 エラーが原因でVMの再設定に関するクエリを送信する間隔（ミリ秒）です。

デフォルト値は「30000」（30秒）です。

- **vmware.rescan.hba.再試行回数=3**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、「...time limit for holding off I/O...」 エラーが原因でホスト バス アダプタの再スキャンに関するクエリを送信する間隔（ミリ秒）です。

デフォルト値は「3」です。

- **vmware.rescan.hba.retry.delay=30000**

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが、ホスト バス アダプタの再スキャン要求を再試行する最大回数です。

デフォルト値は「30000」です。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere用のSSHの有効化

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時、SSHはデフォルトで無効になっています。

手順

1. VMware vSphere Clientで、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが配置されているVMを選択します。
2. 仮想アプライアンスの 概要 タブで リモート コンソールの起動 を選択してメンテナンス コンソール ウィンドウを開き、ログオンします。

メンテナンスコンソールへのアクセスとログインについては、以下を参照してください。["メンテナンスコンソールにアクセスする"](#)。

Maintenance Console : "SnapCenter Plug-in for VMware vSphere"
Discovered interfaces: eth0 (ENABLED)
Main Menu:

1) Application Configuration
2) System Configuration
3) Network Configuration
4) Support and Diagnostics
x) Exit
Enter your choice: _

3. メインメニューから、メニュー オプション*2) システム構成*を選択します。
4. システム構成メニューから、メニュー オプション 6) SSH アクセスを有効にする を選択し、確認プロンプトで「y」と入力します。
5. 「SSH アクセスを有効にしています...」というメッセージが表示されるまで待ち、Enter キーを押して続行し、プロンプトで X と入力してメンテナンス モードを終了します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。